

令和6年度 岡山県立西大寺高等学校 学校評価書

学校経営目標	西高でつかむ、未来への鍵 ～自己肯定感を高め、進路目標に向かって主体的に学ぶ生徒の育成～	重点目標と評価
		(1) 西大寺の生徒に身に付けさせたい6つの力 ○課題発見力 ○自己調整力 ○協力する力 ○発信力 ○課題解決力 ○自律的活動力 (2) 具体的な取組 ①「健康」(心育:マインド)... 心身の健全な成長、及び品格や思いやりの心の育成 ・主体性を育む生徒会活動や部活動等の特別活動の充実 ・気分シントや心の健康観察アプリの効果的な活用を含めた教育相談の充実 ②「知性」(学力向上:スキル)... 主体的・対話的で深い学びの実現、及びPBLの推進 ・わかる授業の実践(ICT活用、個別最適な学び、協働的な学び、リフレクション) ・指導と評価の一体化による授業改善 ③「自律」(地域連携:アクション)... 自己の視野と可能性の拡大、及び実践力と挑戦力の育成 ・校内外におけるチャレンジの促進(資格取得、部活動、各種コンテスト等への参加) ・地域資源を積極的に活用した、CCT、キャリア教育、社会貢献活動、国際交流等の充実 ・進路実現にもつながるCCT、キャリア教育、社会貢献活動の在り方や体系化の検討 ④「チーム西高」としての協働 ・情報共有と報連相を徹底し、協働による学校課題の解決を目指す教職員集団づくりの推進 ・働き方改革の推進、及び同僚性を大切にした支え合う雰囲気づくりの推進

評価する経営目標の番号	課・学科 学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
1	学力向上委員会	・主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、PBL(課題解決型学習)を推進する。 ・わかる授業の実践を目指し、教員が相互に学び合う環境を整備する。 ・指導と評価の一体化による授業改善を図る。	・「ICT活用・個別最適な学び・協働的な学び・リフレクション」等、教員自身が各自設定したテーマで相互授業参観を実施する。 ・クロムブックによる振り返りシートの配信等、ICTを活用した実践事例を共有し、実践を促す。 ・6月と11月の授業公開強化月間に公開授業や相互授業参観が活発に行われるよう、OJT研修を活用する。 ・「西高授業スタンダード5ヶ条」を周知徹底する。	授業評価アンケート「授業中に主体的に学習し、自ら課題や新たな問いを発見できている。」の項目に対する肯定的回答が平均値で60%以上。 (R5:第1回国数英平均49%、地歴理科商業平均50%、実技系59%) ・学校自己評価アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である。」の項目に対する生徒の肯定的評価が90%以上。 (R5:第2回調査 84%)
	CCT・地域連携室	・各学年・科・課・教科・地域等との連携を深め、6つの力の育成を目指した系統的なCCT・社会貢献活動の仕組みをつくる。	①【外的アプローチ:場の提供】 地域資源を積極的に活用し生徒が様々な価値観や考えに触れることができる機会を提供する。【インプット】 + CCTでの活動や社会貢献活動等で得た学びを自分の進路(生き方・在り方)と照らし合わせながら自分の言葉で他者に伝える機会をつくる。【アウトプット】 ②【内的アプローチ:自分事への変換】 6つの力がどのように身についたかをルーブリックを用いて振り返り、経験や学びから得たことを次の行動へとつなげていく仕掛けをつくる。	学校自己評価アンケートにおいて 【1年生】 「総合的な探究の時間」や社会貢献活動等の取り組みを通して自ら課題を見つけこれについて考えようとしていく力が身についた。」が90%を超えている。 【2年生】 「総合的な探究の時間」や社会貢献活動等の学校行事における取り組みを通して見つけた課題を解決するために地域や外部とのつながりの中で自ら行動をおこし学びを得ることができた。」が60%を超えている。 【3年生】 「総合的な探究の時間」や社会貢献活動等の取り組みを通して得た学びや気づきを自分の生き方・在り方と照らし合わせ、卒業後の進路実現に向けて自ら行動をおこし努力することができた。」が80%を超えている。
	総務課	・各科・課・教科等との連携を深め、小中学校に向けた戦略的広報活動の充実を図る。 ・国際交流関連行事を通して生徒の国際感覚とコミュニケーション能力を育む。	・オープンスクール、学校説明会・SNSを通して中学校の先生方や中学生・保護者に本校の教育活動について正しく理解してもらえるよう工夫を行う。 ・地域の人的資源を活用などによって国際交流行事を充実させ、生徒が多様な価値観や考えに触れることができる機会を提供する。	・実施後のアンケートにおいて「本校の教育活動についてよく理解できた」が70%を超えている。 (R5:69.0%, R4:79.4%, R3:62.2%, R2:未実施) ・各行事の実施後のアンケートにおいて「英語でのコミュニケーション能力が高まった」が70%を超えている。
	教務課	①新学習指導要領の実施に伴う内規の追加・修正等の整備を完成する。 ②各課と連携し、学習活動に関わる情報や行事予定を保護者に適切な時期に分かりやすく発信する。 ③業務の効率化を行うことで教職員の業務負担の軽減を図り、進路指導や学習指導等の時間を確保できるようにする。	①新教育課程への完全移行に伴い評価方法を整理するとともに、内規の修正、教科書選定等の関連業務を正しく行う。 ②「通知表の見方」や「シャボテンアプリ」の活用についてや、行事予定等の情報を保護者に適切に時期に分かりやすく提供する。 関係する課と連携し百問線乱やGoogleWorkspace等の様々な機能や活用を教員に周知し、活用を推進することで、生徒や保護者に情報を提供する。 ③成績処理や出欠統計、指導要録作成等の業務を効率よく行う方法を係会議や教務課会議で検討し、実施していく。	①新教育課程の実施に伴い必要な追加・修正等が、R6年度中に完成する。 ②学校自己評価アンケートにおいて「教育方針や目標を生徒や保護者に分かりやすく情報提供している」の肯定的回答が80%以上となる。 (R5: 生徒78%, 保護者77%) ③業務改善の実施後に教職員にアンケートを行い、肯定的回答が80%を超えている。
2	生徒課	学校内外での諸活動を通じて、生徒が豊かな人間性を醸成し、社会の変化に対応できる資質を身につけるための支援を行う。	1.生徒会活動などの特別活動や部活動に、本校の定めた活動目標や方針に基づきながら主体的に取り組ませ、心身の健全な成長を促す。 2.TPOに応じた態度の醸成を通じて、公共心に富んだ社会人としての自立に必要な情況把握力などを向上させる。 3.論理的な対話により、交通法規も含めたコンプライアンスの意識を高めさせる。	1.諸活動による心身の健全な成長 学校自己評価アンケートにおける質問「文武両道を目指した生活を送ることができる」の項目について肯定的回答85%以上になる (R5:84%) 2.公共心に富んだ社会人 学校自己評価アンケートにおける質問「社会人としてのマナーやルールを学習する機会がある」の項目について肯定的回答が85%以上になる。 (R5:80%) 3.交通法規とコンプライアンスの意識 学校自己評価アンケートにおける質問「先生はいじめや生活指導上の問題を見逃さずに対応している」の項目について肯定的回答が90%以上になる。また、重大な交通違反や事故の件数が0となる (R5:91% R5:重傷を伴う事故0件)
	進路指導課	●『進路便り』等の広報紙、集会、CCTを通して、進路選択に関する基本知識や、多様な入試制度や変更点等タイムリーな情報提供を行うとともに、早期からの進路意識の高揚を図る。 ●受験に対応できる確かな学力を定着させ、国公立大合格者を増加させる。 ●学習活動を中心とした生活習慣の早期確立を図り、就職試験に対応できる学力の定着を図る。	ア 進路情報の効果的な提供 他課室や教科と連携して、学年集会、CCT、LHR、また面接や懇談を通してタイムリーな情報提供を行い、生徒が希望する進路の実現を可能にする。進学や就職に対する幅広い視野や将来に対する展望を持たせ、早期からの進路意識の高揚を図るため、『進路便り』を各学年年間10回を目標に発行する。 イ 教科指導力の充実 授業見学、研修、生徒からのアンケートなどを通して、授業での指導力の充実をはかる。 ウ 家庭学習習慣を確立させる指導 予習、授業、復習のサイクルを確立させる。1日平均180分(1.2年)の家庭学習時間の確保を目指す。 エ 個人指導の徹底 成績上位者の伸長、不振者への指導など、生徒個人に応じたきめ細かい指導にあたる。担任による個人面接において、学習方法の指導を充実させる。学年団教員と協力して、面接・小論文指導などを行う。より高い進路実現に向けて、粘り強く最後まであきらめずに学習に取り組ませる指導を徹底する。 オ 補習・土曜講座の運営 補習、土曜講座を通して、授業の補足と内容理解の深化をはかる。 カ 総合的な探求の時間(CCT)・LHRを利用した3年間を見通した指導体制の確立 教員間の意思統一の基に、学年、学期ごとなどの長期、短期的な目標を設定し、実行、検証する。 キ 保護者との連携 進学説明会、保護者懇談会などを通して、学習や学力の実態や就職状況、入試制度を周知徹底する。	●学校自己評価アンケートの「進路に関する情報が適切に提供されている」の項目に対する肯定的回答が92%以上になっている。 (R5: 平均 生徒91%) ●3科合わせて国公立大現役合格者数が44名以上になっている。 (現状 2年1月進研模試偏差値52~54(普国) 2年1月実力診断B1以上(商業) が国公立大合格者の目安であり、現3年生は43名程度と予想される) ●民間企業への就職希望者が100%就職できている。 (R5: 100%)

教育目標の番号	課・学科 学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
2	厚生課	<ul style="list-style-type: none"> 校内美化に力を入れ、教育環境の整備に努める。 生徒の心身の健全な成長を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 整美委員会による清掃状況チェックをさらに活発化し、校内各所の清掃を徹底する。(チェック方法や回数を見直し) 教員間の情報共有の徹底と研修会実施により、体調不良者への対応を適切に行うことができるようにする。(研修会:救命救急とAED研修会、食物アレルギーとエビパン研修会等) また、保健委員会を通して生徒への健康啓発活動を行う。(熱中症予防、運動時のけが予防等) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートで「校内美化が図られ、落ち着いた教室環境が整っている」の項目に対する教員と生徒の肯定的回答が上昇する。(R5: 生徒67%, 教員88%) 学校自己評価アンケートで「怪我や体調不良の場合に適切に対応してくれる」の項目に対する生徒と保護者の肯定的回答が90%を維持する。(R5: 生徒93%, 保護者94%)
	図書課	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を活用した探究活動の充実を図り、読書に親む態度を育てる。 視聴覚・情報処理関連機器の活用頻度を向上させる。 スタンドバイ・シャボテンログの円滑な運用に資する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員会活動の充実と、授業での図書館利用を促進し、読書への関心を深めさせる。 コラムリーディングの充実・徹底を図り、時事問題への興味・関心を喚起する。 継続した保守により利便性を向上させるとともに、活用の研修会を開催する。 スタンドバイへの投稿内容やシャボテンログへの相談依頼について生徒課・教育相談室と生徒の動きを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業・CCT・LHRでの図書館利用時間数が1年で150時間以上、貸出冊数が5,500冊を超える。(R5: 313時間5185冊) 3冊以上借りる生徒数が60%を超える。(R5: 57%) ChromebookをはじめとするICT機器メンテナンスの最新情報提供を年に3回以上行う。 学校自己評価アンケートの「先生はじめや暴力などの生活指導上の問題を見逃さずに対応」の項目に対する肯定的回答が92%を超えている。(R5: 91%)
	教育相談室	<ul style="list-style-type: none"> 心に悩みを持つ生徒やその保護者が安心して相談できる環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「気づきシート」や保会議による各学年からの情報を集約し、気になる生徒や支援が必要な生徒の情報を的確に把握する。15日以上欠席している生徒は、「気づきシート」へ入力すること、紙に記入する「気づきシート」を活用するなど、新たな情報把握の手段を取り入れる。 しゃぼてんログの入力状況から生徒の様子について担任等から聞き取りを行い把握する。 気になる生徒について、学年会議や学年主任会で定期的に情報共有を行い、必要なアプローチや支援の必要性を見極め、ケース会議の開催やSC,SSW、外部機関と連携できるように努める。 思春期相談の開催について、保護者へはメール配信で、生徒へはGoogle Workspaceで周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回以上、情報共有のための会議を開く。提案された対応策については、担任等に迅速に伝達する。 「気づきシート」の新たな活用方法を取り入れる。 月に1回以上は、相談室から学年団、生徒課と情報共有を行う。 ICTを通して周知することにより、学校自己評価アンケート「悩みを気軽に相談することができる」の肯定的割合を75%以上を維持する。(R5年度学校自己評価アンケート生徒78%、保護者76%)
	普通科	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の推進を通して、各学年の段階に応じ、人生設計の一部としての進路意識を持たせ、生徒一人一人の目標達成のために取り組む力をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課・学年・担任・教科と連携し、LHR・CCT 担任面談を通じて進路(学習)への意識を高め、進学を見据えた学習活動の充実に向け働きかける。特に、1年次の文理選択LHRを通して将来を見据え2・3年時にぶれない選択をさせる。 学年団・商業科・国際情報課等と連携して必要とする学年に対して普通科集會を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「進路に関する情報が適切に提供されている」の項目のマイナスイメージの割合が5%以下 (R5: 6%)
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 4技能を意識した授業と生徒が主体的に課題を見つけて学ぶ授業を展開し、留学生との交流会やイングリッシュキャンプなどの行事を通して異文化理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の評価と改善を行う。 授業や行事でChromebook等のICTを効果的に活用する。 校外でのスピーチコンテストや国際交流行事などへの参加によってアウトプットの場を増やし、英語力を向上させ異文化理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生のGTECの4技能トータルスコアの平均CEFR-JがA2-2以上の生徒が9名以上となる。(R5: 1年生6名) 行事や授業アンケートにおいて、「ICTを活用することで授業(行事)での英語理解が深まった。」と回答した生徒の割合が85%以上となる。(R5: 84%)
	商業科	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス活動に関する専門的な学習を深め、関連する検定や資格を取得し、社会貢献できる人材を育てるとともに、新学習指導要領実施の検証及び継続的な取組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人的・物的資源を活用して、ビジネスマナーの向上や国内外の経済事情の把握、金融・金銭教育(租税教育、商品開発を柱とした)の充実を図るため、ビジネスマナーや経済事情に関する講演会等の実施(各学年1〜2回実施)及び商品販売や校外研修(市場調査)など地域社会貢献活動に積極的に取り組む。 新学習指導要領実施に伴う検証と継続的な取組みとして、新科目における教材・教具及び指導法の準備及び研究を進める。デジタル技術を活用した社会課題解決の学習機会を提供し、校内外の活動等において、生徒のデジタル学習における成功体験の機会を提供し、デジタルを活用した探究的な学びを実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「社会人としてのマナーやルールといった道徳的意識についての学習の機会がある」の項目に対する肯定的回答が90%を超える。(R5: 80%) 学校自己評価アンケート「学習活動や特別活動において、課題提示やICT活用等で工夫した学習機会を提供している」の項目に対する肯定的回答が90%を超える。(R5: 91%) ICT活用授業については、科内で効果的な指導法について適宜情報共有し、生徒がICTを活用し、互いの考えを交換したり、共有したりする授業ができる教員が90%を超えている。
	1年	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭学習習慣を定着させ、学習を中心に据えた基本的な生活習慣の定着を図る。その際、chromebook等のICTの効果的な活用を適宜行う。(課題発見力、課題解決力) ②学校行事に主体的に参加し、生徒会活動や部活動等を通して生徒の心身の健全な成長を支援する。(協力する力、自律的活動力) ③CCTにおける進路研究や探究活動、また社会貢献活動等の様々な活動を通して社会性や規範意識を養い、自己肯定感を高めさせる。(自己調整力、発信力) 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業中心の学習スタイル(予習・授業・復習)を定着させ、週末課題等も活用し、安定した家庭学習時間を確保させる。 ②学校行事・生徒会活動・部活動等への積極的な参加をうながす。 ③オープンキャンパスや学校説明会への参加、CCT等でのchromebookの活用による情報収集・分析を行い、学問や進路についての理解を深め、興味を広げていくとともに、自己の生き方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習実態調査において、一日平均の学習時間が140分以上になっている。(R5: 133分) ②学校自己評価アンケートにおいて、「文武両道をめざした高校生活を送ることができる」の項目に肯定的に答える生徒の割合が85%以上になっている。(R5: 77.8%) ③学校自己評価アンケートにおいて、「将来の進路や生き方について学習する機会がある」の項目に肯定的に答える生徒の割合が90%以上になっている。(R5: 91.4%)
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ①学校生活への主体的な取り組みを通じて、校内活動の中心学年であるという自覚を促し、規範意識や周囲への思いやりの心を育むように指導する。 ②学校生活の様々な活動の中から、生徒の進路決定に向けての視野を広げ、必要な情報を収集し、自らの進路実現に向けて行動できる力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動や秋桜祭等の生徒会活動へ、単に参加するだけでなく、自分自身が企画・立案・運営を行うなど、校内活動へ主体的に取り組むよう促す。 ②CCTにおける探究活動や修学旅行・学校行事・部活動などが将来の進路実現につながる活動であるということ意識させよう活動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価アンケートにおける関連項目の肯定的回答が90%を超えている。 ②学校自己評価アンケートにおける関連項目の肯定的回答が90%を超えている。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 教員同士支え合う雰囲気作りを行い、進路指導課と連携することで、生徒の多様な進路希望に応える。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的かつわかる授業を実践することで学力を向上させ、生徒の視野と進路選択の可能性を拡大する。 細やかで丁寧な面談を生徒、保護者に行い、適切な進路情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート「9教員は授業の進め方を工夫していて、分かりやすく充実した授業を行っている」に対して全科生徒の肯定的評価が85%以上になっている。(R5: 2年生 74.3%) (R5: 3年生 86.9%) 学校自己評価アンケート「12進路に関する情報が適切に提供されている」「13進路について、担任や進路指導課の先生が相談のつてくれる」に対して全科生徒の肯定的評価が95%以上になっている。(R5: 2年生 12:91.3% 13:92.5%) (R5: 3年生 12:91.6% 13:95.4%) 	